

ねいの里 ホオホオニュース



希少生物保護回復事業に参加して

富山県職退職者会高岡支部
事務局長 牛谷 博信

私たち退職者会は、「三つの目標」のもと活動しています。会員相互の親睦・学習（学ぶことは死ぬまで）・社会への奉仕です。

昨年から、この「ねいの里」の活動に参加させていただき、会員仲間は本当に感謝しています。自分たちの活動が少しでも社会に役立つ事への喜びです。さて、今回の活動は、環境省の絶滅危惧Ⅱ類種に指定されているギフチョウの食草「ヒメカンアオイ」と、少なくなってきたササユリの植栽行いました。

その後昨年も行なった、水辺の生態園で外来植物である、「アメリカセンダングサ」と「セイタカアワダチソウ」の除去作業を行いました。

作業前には、湯浅顧問から、「人に害を与えるクマ、マムシ、スズメバチの話」を、面白おかしくお話いただき、富永館長からは、せっかく植えたヒメカンアオイを根こそぎ、心無い人に盗まれた話などを伺い、作業に入りました。

9月中旬というのに残暑厳しく、仲間は体から汗を流しながら作業を完了、一人の事故もなく無事終えました。



ヒメカンアオイの植栽



ぶた汁で美味しいお昼

そして、「ねいの里」の方々のご配慮を賜り、豚汁に舌鼓を打ちながら、昼食を参加者全員でいただき、仲間から差し入れの冷たいスイカやイチジク、サツマイモ（焼きイモ）等をおいしく食べました。

さらに、隣の施設「いこいの村 磯波風」のご好意で温泉で汗を流し、来年も又参加しようと思ひ合い、帰路につきました。

活動をふりかえり

トンボの標本作り 8月11日(土)(ねいの里行事)

ねいの里主催の8月最初の行事では、水辺の生態園に生息するトンボ類を調査と標本作りを行いました。参加者は主に小中学生であり、小人 17名、大人 8名、計 25名でした。

行事当日は、重い雲がかかり、トンボを観察するには良い天気ではありませんでした。参加者はトンボの観察が始まると、水辺のピオトープの池の淵でトンボを観察し、参加者らは、わからないトンボを発見するとねいの里スタッフに「このトンボの名前はなんですか？」や「ねいの里以外ではどんなところにありますか？」といった質問をしていました。しかし、40分の観察の後、雨が強くなり展示館へ移動しました。展示館に戻った参加者は、10時半から11時頃までねいの里スタッフによるトンボの体部構造と生息環境の解説を聞きました。

その後、トンボの標本作りを行い、参加者は、真剣な眼差しで、標本作りに専念していました。標本を作り終わる頃には天気が回復し、行事後もう一度トンボ観察をしていた参加者もいました。

当日は10種類のトンボを観察することができました。



記：垣地 健太（ねいの里職員）

里の山ついに

初めてのトンボの標本作り

ジュニアナチュラリスト 鷲本 彰子 さん
(富山市立呉羽小学校6年)

8月11日に、「トンボの調査・標本作り」の行事に参加しました。ねいの里には、オオシオカラトンボ、キイトンボ、コオニヤンマなど、私の家の周りでは見られない、めずらしいトンボがたくさん飛んでいました。私はモノサシトンボとショウジョウトンボをつかまえました。イトトンボは簡単につかまえられますが、ヤンマはスピードが速くてなかなかつかまりません。それで、オニヤンマは講師の方がつかまえてくださいました。

採集の後、この日見つけたトンボの種類をみんなで報告し合いました。それから、トンボについての講義があり、トンボは夕方たくさん飛ぶこと（黄昏飛翔）や、冬でも見られるトンボがいることなど、面白い話を聞くことができました。

最後に標本作りをしました。私は以前、ジュニアナチュラリスト養成講座でチョウの標本を作ったことがありましたが、それよりもずっと難しかったです。特に大変だったのは、オニヤンマの標本作りでした。大型のトンボなので、カッターで内臓を取り出さなければいけません。お腹を切る時やシャーペンのしんを体に通す時に、羽をバタバタさせて暴れたり、かまれそうになったり…。逃げられないよう緊張しながら作りました。講師の方に手伝っていただいて、なんとか完成した時は、とても嬉しかったです。



標本用トンボ採り

一緒に参加した弟も、うまく標本が出来たので、「夏休みの自由研究」として学校に提出しました。ねいの里の皆さん、いろいろ教えてくださって、ありがとうございました。来年もこの行事があったら、ぜひ参加したいと思っています。



有峰の自然を愛でる 9月3日(日)(ジュニアナチュラリスト支援行事)

毎年恒例のジュニアナチュラリスト行事「有峰の自然を探る」が行われました。豊かな自然が残る県立有峰自然公園は、自然観察には大変魅力的な処で、毎回皆さんに人気の行事です。残念ながら9月初めは運動会等、行事が重なり参加できない皆さんも多くいます。内容は一般的な自然観察と、この時期最盛期のアサギマダラのマーキング調査です。今回は17名のジュニアナチュラリストが参加してくれました。講師やサポート隊9名、合計23名での観察会です。

有峰ビジターセンターから4コースに分かれて観察会がスタートです。まずはアサギマダラのポイントを目指し、クマやサル等の生き物達との出会いも期待しながら、各車を進めます。マイクロバスはアサギマダラ情報やクマの親子の目撃が多い東谷コースです。

祐延湖コースでは、アサギマダラは午前中ほとんどマーキングできませんでしたが、午後から姿を見せ、全体で51頭マーキングしました。南での再捕獲を期待したいと思います。残念ながらクマとの出会いはありませんでしたが、サルを観察できたコースがありました。



再捕獲を願ってマーキング

14時30分から冷谷キャンプ場で各コースの報告会を行い、その後湯浅講師からヒミズ、ウサギコウモリについて話があり、参加者は実物を手にして興味深く観察していました。山下講師からはブナ等、当日観察した植物について話があり、豊かな有峰の自然にふれる一日となりました。



冷谷での報告会

記：長谷川 寛（ねいの里職員）

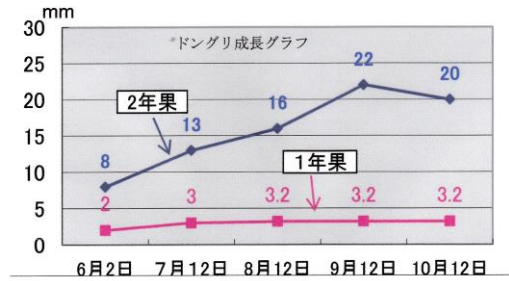
ちょっと豆知識



クヌギの実は2年で大きくなるよ



里山の秋と言えば、どんぐりが思い浮かびます。どんぐりの定義を調べると、ブナ科の木の実を総称したものとありました。クリ等も入りますが、狭義では食用に適さないもので、クリやシイ、ブナなどは除外すべきともありましたが、細かな定義はさておいて どんぐりの実が2年成と1年成があるのをご存知ですか？ 2年成はクヌギ、アベマキ、ウバメガシ、ウラジロガシ、マテバシイ、スダジイ等で2年で完全に結実します。コナラ、ミズナラ、カシワ、シラカシ、ブナ等が1年で結実する、1年成のどんぐりです、意外と2年成が多くあります。



H19. 10. 12 一年目



H19. 10. 12 二年目

展示館前広場のクヌギの実の直径 (mm) 経過

このデータは自然塾会員の松任力氏の調査データをお借りしました

～ねいの里・自然塾の会行事予定

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

- 11月 3日 (土) 9:30 ~ 12:00
ネーチャーゲームで遊ぼう 場所 ねいの里 自然塾の会行事
- 12月1日 (土) 9:30 ~ 12:00
クリスマスリース作り 場所 ねいの里 自然塾の会行事
- 1月 4日~6日 9:00 ~ 17:00
春の七草頒布 場所 ねいの里 ねいの里行事

参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 11月18日 ~ 12月16日 いちよん会自然写真展
- 12月10日 ~ 1月16日 春の七草実物展
- 12月20日 ~ 3月31日 ネーチャーフォト展 自然塾の会写真展

■ お願い ■

- 「生き物ふれあい自然塾の会」会員募集中
皆さんのお知り合いで、ねいの里をよくご利用される方がおられましたら、自然塾の会への入会をお薦め下さい。会員の方にはねいの里会報「ふくろう通信」をお送りします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 富山県自然博物館ねいの里館長 富永 宣宏
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ http://www.toyamap.or.jp/shizen/



今日のふくろう先生

平野 康美さん (富山県自然解説員)

終の棲家(?)の周りには

8年前、八尾の山里で大きなトチの木におおわれた廃屋に出会い、その木に魅了された私は、この木の下で暮らしたいと強く願いました。

ところがある日、その木は根本からバツサリと切られ、この木と共に暮らしていこうと思っていた私には寂しさがずっと残りました。

間もなくこの家を買ひ、地元の長老に言われた言葉は「ここは集落の中でも一番ひどい所や、あんたみたいな町のかあちゃんにはここでは暮らせんぞ」でした。確かに生活するには周辺の環境は厳しい事ばかり、山は杉の放置と竹の侵略で荒れ放題。道路わきには沢山の不法投棄物。春と秋にはガラスにびっしりカメムシが付き、お盆過ぎにはアブとオロロ(小さなアブ)の大群。大雨が降れば蛇口の水は濁ってしまい、冬の積雪は平均2m…。長老の言う通りです。

ここは20数年前、地元の人でさえ出て行ってしまった地域です。ところが意外なことに、私はここに多くの楽しみを見つけてしまいました。

早春には山菜採りをする私の周りにはギフチョウが飛び、5月にはオオルリなど渡り鳥がやって来ます。5月末、庭横の防火水槽はモリアオガエルの産卵場所になります。カエルを狙ってヘビがコンクリートの上でジッと待機し、ヤモリやマツモムシもオタマジャクシの誕生を待ちかまえています。その頃から前の山ではアカショウビンの鳴き交わす声が響き、もっと上空には猛禽がゆうゆうと舞っています。

夏には、辺り一帯を縄張りとするクロスジギンヤンマやオニヤンマなど数種類のトンボや蝶が現れ、コスズメバチが丸い巣を作ります。

この小さな防火水槽の周りに、こんなに多くの生き物が生活していることに、私はワクワクして幸せな気持ちになります。

そして一番嬉しかったのは、あのトチの切り株から元気なひこばえが出てきた事です。

私はいつも「この自然を守りたい！」などと言ってきましたが、自然に生きる彼らは本当に強くてたくましい。守られていたのは実は私の方？そんな風にも思うようになりました。

まだ小さなひこばえの勇姿を、もう一度見られる日が来る事を心から願っています。さてその頃、私はここを終の棲家としているのでしょうか？それとも長老の言う通り…？



手直し中の山の家



家の近くのホオジロの卵



防火水槽上のモリアオガエルの卵